

## 2 輸入動向

### 2000年野菜と果実の輸入動向

#### ア 動 向

- ア) 2000年の野菜輸入は 2,605,208トン、3,423億円と、前年の2,559,882トン、3,625億円に比べ数量で1.8%の増加、金額で5.6%の減少となった。
- イ) このうち約1/3を占める生鮮野菜を見ると、971,116トンで、前年比5.6%の増で、100億円に迫る史上初の実績を記録した。
- ウ) 果実輸入については、2,084,984トン、2,353億円と、前年の実績に比べて数量で9%の増加、金額で4.6%の減少となった。
- エ) このうち数量で9割近くを占める生鮮果実は1,842,847トン、1,665億円と前年に比べて数量で11%の増加、金額で2%の減少となった。
- オ) 一方輸入価格(C I F)は、円の対ドル為替相場が1,999年が113.94円、2000年が107.78円(日本銀行年平均)と円高が進行し、下落傾向となった。

(附表は省略)

### 農生産物貿易に関する調査 ～ 8割が輸入より国産～

平成12年7月に実施した「農産物貿易に関する調査」が、このほど農林水産省から発表された。調査対象は全国の成人男女5,000人。

調査では食品を買う場合、約82%が輸入よりも国産品を選び、安全性や品質を重視して「国産を選ぶ」と答えていることがわかった。(附表、附图は省略)

さくらんぼの輸入早まる。4月29日に今年初上陸

ここ2年間、本県産生産量を上回る1万5千が輸入されている米国産チェリーが4月29日に成田に初上陸する。

輸入果実はほとんどが輸入業者経由量販店仕向となっているため、初荷の販売動向で本年の輸入動向が決まるといわれているので、注目したい。

なお、5月に輸入される米国産の主力であるカリフォルニア州産は生育が順調であると伝えられている。現地では早生のブルックス種が収穫期に入っているが、4月20日に一部で激しい降雨があり、実割れが一部で観察された、という情報がある。

#### さくらんぼ輸入量 t

平成12年	16,716
平成11年	15,891

資料:財務省「通関統計」(東京青果物情報センター、年報より)